

学域名	人間社会学域
学履名	人文学履
プログラム名	歴史学プログラム

<p>学履のディプロマポリシー（卒業後方針）</p> <p>KUOSは次世代グローバルリーダー（グローバルリーダー）を養成、人文学域では次に挙げた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に次世代の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と国際感覚 人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、高い知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる課題を自ら発見することができる。（≪KUOS1.3に対応）</p> <p>2. 社会的責任感と専門性 各プログラムにおける専門的・学問的・学際的内容と、文献読解とよきコミュニケーション能力を、系統立てて理解・習得し、説明できるとし、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に意欲強く主体的に取り組んでいくことができる。（≪KUOS1.5に対応）</p> <p>3. 適切な主体的情報収集能力 多岐の情報、文書、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとし、明確な論理構成能力と高い文章表現力で自己を的確かつ的確に表現することができる。（≪KUOS1.2に対応）</p> <p>4. 多角的視野による多面的理解と柔軟なコミュニケーション能力 多面的視野を持って、異なる文化や価値観をも含む世界の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有し、日本、日本そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切な意思の疎通を図ることができる。（≪KUOS4.1に対応）</p>	<p>プログラムのディプロマポリシー（卒業後方針）</p> <p>歴史学プログラムでは、人間の歴史・文化・思想・言語・行動・創造について考究する人文学の高度な学び、履修モデルを参考としつつ、それぞれの志望に応じた選択した分野・地域を中心とする高度な専門知識を有し、さらに人文歴史の発展に学際的視野から人文学を貢献する、学生（文学）の学位を授与する。以上の人材養成目標を達成し、かつ下記のディプロマポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような学習成果を上げようとする。</p>
--	--

<p>学履プログラムのOPがキョウム履修方針</p> <p>【OP1のOP】 OP1にかかると資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。</p> <p>1. 学生履修指導を重視して、KUOSに設定した各科目を体系的に履修して、学士課程教育の基礎となる幅広い豊かな教養を身につける。また、G5履修科目（英語）のみならず、必ず初習履修科目および上選する上で、年間30単位（15単位）履修し、英文学への理解を深められる。（≪OP1）</p> <p>2. 歴史学・人間社会学域G5科目と人文学基礎科目を履修し、前者では大学・学部・学問領域、ジャンル・派、文化・歴史、文学・語学、異文化理解、法政・経済、地域創造学、グローバル等、人文科学、社会科学の基本的知識や方法を、後者では人文科学の基礎的知識、習得する。そして履修領域をそれぞれ履修し、人間社会学域および人文学域における基礎的知識を身につける。（≪OP1）</p> <p>3. 英語については、1年次のG5履修科目を履修し、2年次で学履G5履修科目。また、各プログラムの専門科目における英語履修を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（≪OP4）</p> <p>4. 英語科目は、履修科目と並行して履修科目に設定される。いずれのプログラムにも履修する。個人あるいはグループ単位での発表、報告（10分以内）作成、討論、質疑応答などの活動から主体的な授業参加を促すこととし、双方向的な授業を進めること。専門的知識の履修に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（≪OP4）</p> <p>5. 年次別完全プログラムにおいて非履修履修科目を設定する。卒業履修科目は、卒業履修専門履修科目の履修となるもので、1年次から2年次まで履修し、基礎的知識と専門性における学習成果を身に付ける。学生自らの課題やテーマを設定し、データ資料・史料等を収集、分析、整理し、自己の発想を明確かつ論理的に表現して、自己の養成ができたかどうかを明確に評価するものがある。あわせて口頭試問では、自己の発想の明確に加えて読解・批判・論議に互を刺激し合うことにより対応できる能力も評価される。（≪OP4）</p> <p>【OP2のOP】 プログラムの履修科目である1年次の歴史学入門、および履修が求められる人文学基礎科目（グローバルとスリ）履修を履修して、歴史学基礎的知識や方法を学ぶ。そして各自の志望する履修科目を卒業し、2年次、3年次には専攻の履修科目を履修し、歴史学における歴史学の論文、史料の分析と読解方法を体系的に学習する。このほか、履修モデルの履修、および卒業を含む履修科目に履修履修、履修履修、履修履修科目を選択し、専門的知識を習得する。</p>	<p>プログラムの学習成果（O=学習成果を上げために履修することによって達成せられる科目、O=学習成果を上げために履修することによって達成せられる科目、A=学習成果を上げるために履修することによって達成せられる科目）</p> <p>歴史学入門の履修科目は、既述した課題に対して、多岐にわたる年代を駆使して情報を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多岐にわたる年代、多岐にわたる学問領域を駆使して情報を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多岐にわたる年代、多岐にわたる学問領域を駆使して情報を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多岐にわたる年代、多岐にわたる学問領域を駆使して情報を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p> <p>多岐にわたる年代、多岐にわたる学問領域を駆使して情報を整理、要約して、口頭や文章などで報告することができる。</p>
--	---

プログラムの履修科目		履修科目							
履修科目	履修科目	履修の学習成果	学履	O 1	O 2	O 3	O 4		
4197B	日本語学履修1	日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通じて、その基本的特徴を理解する。 「音韻の現象」についての基本的理解を身に付ける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)		
1107B	日本の物語と語り物	日本文学史を要約する過程でジャンルを駆使して取捨選択する過程を通じて、その基本的特徴を理解する。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)		○
1107A	日本文学の近代	近代文学と社会の関係を把握する。言語の細部まで注意を払って、主体的理解ができる。日本文学の問題について知見を深める。	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)		○
1107E	日本文学とメディア	近代文学と社会の関係を把握する。言語の細部まで注意を払って、主体的理解ができる。日本文学の問題について知見を深める。	2,3,4			*			○
1107F	中国の言語文化A	中国の言語文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*			○
1107T	中国の言語文化B	中国の言語文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2				*		○
21401	言語研究入門	言語学に関わり関わるための基礎的知識と基本的な方法を習得する。	2~4	*					○
21406	文学研究入門	文学研究に関わり関わるための基礎的知識と基本的な方法を習得する。	2~4		*				○
21410	比較文学入門	比較文学に関わり関わるための基礎的知識と基本的な方法を習得する。	2~4			*			○
21417	言語認知科学入門	認知科学に関わり関わるための基礎的知識と基本的な方法を習得する。	2~4			*			○

※ (*)は年度によって履修時期が異なることを示します。